



遠中だより

発行日：令和5年3月22日
発行：蔵王町立遠刈田中学校
【第22号】文責 佐藤

自主 敬愛 活力

3月9日 遠刈田中学校 第76回卒業式が行われました

3年生の門出を祝うかのように遠刈田にも柔らかく暖かな日差しが降り注いだ3月9日。4月中旬のような春の陽気に包まれ、蔵王町立遠刈田中学校第76回卒業式が行われました。3年間、何事にもひたむきに取り組んできた3年生らしい、大変立派な卒業式となりました。はっきりとした力強い声で返事をし、証書を受け取る姿や真剣な眼差しで話を聞く様子などは、9年間の義務教育をしっかりと締めくくるものでした。中学校生活の3年間にまさにコロナ禍の中で過ごしてきた3年生。大きな不安の中で多くの我慢を強いられた生活だったと思います。そうした中でも、明るく前向きにしっかりと毎日を歩んできた3年生の皆さんの頑張りに心から拍手を送りたいと思います。そして、この1年間、3年生として遠刈田中学校をしっかりとリードしてくれたことに感謝いたします。

今年で遠刈田中学校を巣立った卒業生は4,446名を数えました。卒業生のみなさんは同窓生として、これからも遠刈田中学校を温かく見守っててください。3年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。



遠刈田中学校 第76回 卒業式 学校長式辞

肌をなでる遠刈田を吹く風に、ほのかな暖かさが、明るい日差しの中、漂う空気に、生命の息吹が感じられるようになりました。春本番はもうそこまで来ています。この佳き日に、第七十六回遠刈田中学校卒業式を挙げていきますこと、心からうれしく思います。

さて、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。只今、一人一人に卒業証書を授与しましたが、皆さんの表情からは、旅立ちの喜びと、新しいステージへの期待が伝わってきました。そして、皆さんに証書を渡しながら、皆さんと過ごした二年間を振り返っていました。皆さんと初めて出会ったのは二年前、皆さんが2年生の頃でした。自衛隊体験学習に同行した時に、素直で優しく、ちょっと控えめな印象を受けたことを思い出します。そんな皆さんが、自分の殻を破り、積極的に行動し始めた大きな節目が生徒会選挙でした。OY君が、「自分の短所を克服したい」と全校生徒の前で堂々と話し、自分に挑戦したこと。また、IYさんが「憧れの先輩のように、力強く遠刈田中学校を引っ張っていきたい」と決意を述べたことに、私は大きな可能性を感じました。新執行部が決まり、新しい生徒会スローガンが発表されました。「Never give up!」「どんなときでも、諦めずに前へ進んでいこう」というスローガンは、笑顔で協力し合い、何があっても諦めずに進み続け、遠中をさらに楽しく活気溢れる学校にしたいという思いが込められていました。その後の職場体験では、全員が別々の職場で二日間の体験学習を経験しました。頼れる人がいない中で体験は、皆さんの力になったと感じています。そして、3年生になってからの皆さんは、大きく変わりましたね。中総体での活躍、陸上大会や駅伝大会への挑戦、また絵画や書写、作文や弁論など、文化的な活動に、そして学級での役割や、学校行事等での多くの挑戦など、3年生一人一人が自分自身を超えようと前へ歩み続けた1年間であったと思います。他と比べるのではなく、自分自身と向き合い、成長してきたことに誇りと自信を持ってほしいと思います。また、3学年は、人を優しく受け入れる器の大きな集団でもありました。その心の温かさと前向きに挑戦し続ける姿勢によって、後輩をまとめ、リードし、遠刈田中学校を楽しく活気溢れる学校にしてくれました。その大きな成果が、躍動と感動

溢れる遠中祭に現れています。皆さんが常に自己の進歩向上を目指し、挑戦と努力を積み重ねたことは本当に素晴らしいことです。そして、その姿勢を後輩に示し続けてくれました。立派な最上級生でした。

それでは、皆さんの門出にあたり、私から二つの願いを伝えます。一つ目は、「自立する力」を伸ばしてほしいということです。この3年間、私たちは、新型コロナウイルス感染症により、それまでの日常を奪われる未曾有の経験をしました。しかし、皆さんは多くの制限のある中で、仲間と力を合わせ、工夫を凝らし、充実した学校・学年行事を作り上げてきました。一方、現在の社会の状況に目を向けてみると、世界では、様々な国や地域で対立や紛争がおき、日本を含め、甚大な自然災害も毎年のように発生しています。また、人工知能AIや自動運転技術が発達し、実用化するなど、今後さらにロボット化が進むことが想像できます。これから皆さんが活躍する未来には、想像もつかなかったようなことが起こるかもしれません。

そんな社会の変化や出来事に対応し生きていくためには、これまで皆さんが実践してきたように、周りの人たちと支え合って生きていくことがますます必要となってきます。哲学者・心理学者の岸見一郎さんは、「自立とは、頼れる人とのつながりを多く持つことだ」と言っています。自分だけでなく周りの人たちとのつながりを大切にし、お互いに支え合いながら自立することが真の自立であるということです。私たちは、誰も一人で生きていくことはできません。これからの新しい生活でもそれは同じです。悩みや困難を一人で抱え込んでしまうのではなく、周りの人たちと支え合っていくこと、助け合っていくことを大切にしてほしいと思います。互いの弱さを補い合い、互いのよさや強みを生かし合うことで、どんなに困難な課題も乗り越えていけると信じています。

二つ目は、学び続ける人になってほしいということです。本当に大事なことは、試験や受験の先にごそあるということをご皆さんには知ってほしいと思います。「学ぶ」ということは、教科書に書かれたことをただ覚えるということではなく、「そのことはどういうことなのか?」「本当の意味は何だろうか?」と自分なりに問い続けることだと思います。身の回りの出来事も含め、自分自身の頭で一生懸命問い続けることで、本当に物事が分かる、心から実感をもって納得することができるのです。根拠のない偏見や思い込みは、私たちの目を曇らせます。私たちが広い視野と様々な角度から見る目を持って物事を観察し、じっくりと考えることで、偏見や思い込みから自由になることが必要なのです。私たちは、深く学ぶことで、身の回りの世界や文化の真実を知ることができます。それはとりもなおさず、自分自身を知ることにつながっていくことでもあります。それゆえ、私たちは学び続けることが大切なのです。これからも、目の前の壁から逃げず、失敗や困難を恐れることなく、前に進み続けてください。自分が納得する答えを出すために、深く学び続けてください。そして、周りの人たちとのつながりを大切に、互いに支え合いながら一つ一つの壁を乗り越えてほしいと願っています。

むすびに、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。ご家庭の皆様が注がれた、これまでの愛情と期待を一身に受け、お子様はこんなに立派に成長されました。これまでのご苦勞に心から敬意を表します。そして、三年間頂戴いたしました、本校教育活動への深いご理解と厚いご支援に心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんの健やかで輝かしい未来と発展を心から祈念し、式辞といたします。

令和5年3月9日 蔵王町立遠刈田中学校 校長 目々澤 辰悟



卒業生15名は4月から全員、高校生活を迎えることとなります。3年生のみなさん、ご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。遠刈田中学校の卒業生として、それぞれの道で、ますます活躍することを在校生・職員一同、心から願っています。